

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078
法人名	社会福祉法人 桜園
事業所名	グループホーム さくらそう (ユニット名 かのん )
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028番地1
自己評価作成日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年2月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) <input type="radio"/>	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) <input type="radio"/>
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) <input type="radio"/>	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) <input type="radio"/>
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) <input type="radio"/>	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) <input type="radio"/>	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) <input type="radio"/>	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) <input type="radio"/>	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) <input type="radio"/>		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆で支え合いながら、楽しく笑いながら、住み慣れたちっごで、さあ暮らそう」の理念を目に付く場所に掲示している。それを踏まえて、全職員がそれぞれの役割を果たすよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りに参加させて頂き、また事業所での秋祭りに地域の方々をご招待した。併設施設の方とも散歩・草刈りへの参加で交流を持った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方・ご家族を招いての認知症に関する勉強会等の開催を検討したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じてサービスに対するアドバイスを受けている。またその結果は会議や連絡ノートで共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点は随時連絡を取り合い、問題の解決に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠は行っていない。ご利用者が戸外へ出たいときは、職員付き添いのもとで外出頂いている。言葉による身体拘束など「身体拘束にあたる具体的な行為」について、更なる周知に努めていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議の中で、虐待について考える機会を持たせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について施設内研修を開催しているが、活用にはいたっていない。職員全員が当制度について説明できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、ご理解・ご納得を得るようにしている。また疑問点があれば、随時解決に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。また意見が言い易いような雰囲気づくりにも努めている。ただ効果はあまり出ていない。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を開催し、職員の意見や提案を徴収している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個性を把握し、やりがいを持って働けるように役割を持たせている。随時個別に面談も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	幅広い年齢層の職員が働いている。個々の能力を発揮し、生き生きと働けるような職場環境づくりに努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	あらゆる機会を捉えて、人権について各職員に指導・アドバイスをしている。ただ職員の中に届いていない場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップできるよう、研修や資格の取得を奨めている。また個々の職員の成長に合わせて、仕事の分担を決めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加しており、情報交換や職員の交流を図る機会としている。今後相互の施設訪問等も推進していきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が理解しやすい形でサービスに関する説明を行い、安心・納得してサービスをご利用頂けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に関する疑問や不安があれば出来るだけ初期の段階で解消に努め、サービス導入後も密に連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のニーズに合う支援ができるよう十分に話し合いを行い、必要があれば、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活の場であって、年長者であるご入居者から生活の知恵を教えて頂くことで、互いを支え合う関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や散髪、ご本人の希望による外出など、ご家族にも協力を仰ぎながら支援に努めている。面会で来られたときは、出来るだけお話しするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外に友人や知人の面会があった際は、ゆっくりと懐かしい時間を共有して頂けるよう支援している。馴染みの場所への外出の機会はやや少ない。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の良好な関係が結ばれるよう、座席等にも配慮している。トラブルがあった際には、介入し、関係性の修復に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、プライバシーに配慮しながらご家族・他事業所への照会に依拠している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者やご家族のお話をよく聞くように努めている発語が難しい方、耳が遠い方には筆談を取り入れている。会議等でもよく検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の段階で、ご家族や他事業所からしっかりとご本人の経歴について伺い、フェイスシートを作成している。またご本人・ご家族とのコミュニケーションの中で生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での気づきを職員間で共有し、ご利用者の心身の状態や有する能力の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り、カンファレンスをもとに現有能力の維持と自立を目指したケアプランの作成に努めている。ご家族面会時にはご意見を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者のふとした言葉・会話等も記録に残し、気づきやケアの見直しに活かせるように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内で完結せず、併設施設とも協力し、柔軟なサービスが提供できるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族・地域・かかりつけ病院との交流を通して、ご入居者の安全で豊かな生活を支援している。今後は防災面等でも地域の方々にご協力を仰ぎたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診に加え、変化があればその都度かかりつけ医に相談、受診をしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の状況に変化があれば、すぐに看護師へ報告し、必要に応じて受診へと繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師より、担当医へ情報の提供と相談をし、指示を仰げるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、また入居後も適宜ご家族には重度化・終末期についてのお話しをしている。また各職員・医師とも必要に応じて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用法や緊急時の対応についての研修をしている。また日常的にも看護師から指導や助言を行っている。ただしとっさの場合の対応を身に付けているとは言い難い。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施をしているが、地域との協力体制までには至っていない。今後豪雨のような災害を想定していく必要あり。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った丁寧な声掛けを心がけ、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で、出来るだけ自己決定して頂けるよう、受容的な態度に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望・体調を第一に、ご本人のペースで一日を過ごして頂けるよう、柔軟な支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、訪問理美容を利用して頂いたり、ご家族と一緒に散髪に行って頂けるよう声掛けをしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事には弁当や鉢盛を用意している。日常でも野菜の皮むき・切り込み等できる範囲で協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事の形態・分量が確保できるように支援している。水筒を持って頂いたり、夜間帯にも適宜水分補給に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと義歯の洗浄を行い、週に1回は洗浄剤での義歯の洗浄を実施している。異常があれば歯科受診を行う。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンの把握に努めている。パット類も見直し・使い分けを行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便ペースの把握と、水分摂取を勧めている。必要な方には薬での排便コントロールをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、本人の希望・状況により変更は可能である。楽しんで入浴して頂けるよう、背中を流したり、お話しをしたりしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のゆったりとした雰囲気づくりを大切にしている。必要に応じて居室、ソファでの休息も勧めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な内服の為、薬の一覧表・服薬チェック表を作成している。今後介護職員の薬の効果・注意点に対する知識を深める必要あり。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、カラオケ、塗り絵、ボードゲーム等様々なレクリエーションを実施している。調理や洗濯物たたみ、草取りなど役割を持って頂く支援もしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出計画を立て、ドライブ等行っている。日常的にも施設敷地内外の散歩にお誘いし、気分転換を図っている。ご本人の希望があれば、買い物や散歩にも個別に対応している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、施設での金銭管理は行っていないが、ご家族・ご本人了解のもと、ご自分で少額の金銭を管理されている方もいる。希望により買い物の代行等も行う。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在日常的に電話や手紙を希望されるご入居者はいらっしゃらないが、正月には自筆もしくは職員の代筆でご家族へ年賀状を出されている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作成した、季節に応じた貼り絵や飾り絵を掲示している。また清潔に努め、温度や湿度等快適な環境の調整にも配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外に、ホール内やホールそばの廊下にソファや椅子を置き、独りになったり、歓談をしたりできる場所の提供に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や寝具、仏壇や写真等の飾りで、その方らしい生活空間を作っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」はできるだけご自分で行って頂き、職員は寄り添う立場をとるようにしている。		